

山本鼎を偲んで

愛知教育大学附属
岡崎中学校長

野澤 博行 氏



教育随想

山本鼎は、明治十五年（一八八二）十月二十四日、岡崎市上肴町（現伝馬通り一丁目）に生まれました。ちなみに、村山槐夢はいとこにあたります。山本鼎は、五歳のときに郷里を離れているとはいえ、岡崎の生んだ巨匠です。後の「児童自由画」の提唱や、農民美術運動により、教育史上多大な貢献をなした事は多くの人が知るところでしょう。事実、我々は今日においても、自由画教育運動の成果の恩恵を披っています。

同時に、山本鼎の業績で忘れてはならないことは、創作版画運動の創始者であることであり、文化的な意義は前者に勝るとも劣らないものです。伝統木版の彫り師として修行し、年期明け後、東京美術学校西洋画科に入学しました。美校でのヨーロッパ近代美術との出会いが、「自ら描いた画を彫りたい」という創造意欲を



かき立てたと思われまます。伝統木版の分業制作と決別し、「自画、自刻、自摺」による、作家性の高い近代美術作品としての版画を目指した「創作版画」運動が始まります。

その記念碑的な作品が、明治三十七年（一九〇四）に与謝野鉄幹主幹の美術文芸雑誌「明星」に発表された、木版画「漁夫」です。近代的自我の確立の過程の中で、美術としての版画が意識され創作され続けてきて百年が経ったということができます。

今日では「創作版画」を意識することはありません。しかし、我々は多大な遺産を継承していると思えます。版画は特殊な領域ではなく、一つの文化として発展することができました。また、小・中学校の版画教育は創作版画運動の系譜抜きでは語り得ません。

山本鼎は、活躍の地こそ異なりませんが、岡崎に対して輝きに満ちた浪漫の香りを残してくれたのではないのでしょうか。



平成20年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	■
愛知教育大学附属岡崎中学校長 野澤 博行氏	
この人に聞く	■
岡崎陸上競技協会理事 愛知駅伝岡崎市チーム監督 古久根啓夫氏	
羅針盤	■
城北中学校長 河村 喜美	
ふれあい	■
矢作東小 高橋 遼 竜南中 牧野 佳恵	
特集	■
お知らせ	■
フォト・ヒストリー	■
ホテルの保護活動（昭和52年）	
この本を	■

ふるさとシリーズ この人に聞く



陸上を愛し、 岡崎を愛する

岡崎陸上競技協会理事長
愛知県岡崎市チーム監督

古久根 啓夫 氏

「今年は三位までに入ろう」を合言葉に、選手とコーチが丸となったがんばってくれました」と嬉しそうに話す古久根さん。昨年十二月、愛知県岡崎市対抗駅伝競走大会（愛知駅伝）で優勝した岡崎市チームの監督である。

平成十八年からチームを率いており、その苦勞をお聞きした。

「二年目はとにかくがむしゃらでした。九区間あるのですが、コーチが

一人しかおらず、中継箇所につけられないなど、十分なサポートができませんでした。」

そこで、二年目はコーチを十人にし、体制を整えたそうである。

「選手の選考にも苦勞しました。優秀な選手を集めようと、いろいろな大会を見ました。しかし、結果を期待できる選手を見つけるのに時間がかかりました。」

最終的に選手の顔合わせができたのは十一月だったそうである。

「また、小学生から四十歳代の大人まで、いろいろな選手が集まっているので、選手の団結を高めるのに気を配りました。」

選手たちの気持ちを一つにしようと、みんなで龍城神社に行って祈願し、お守りを身に付けて走ったそうである。

一方、古久根さんは、岡崎陸上競技協会の理事長として、乙川新春マ



ラソンを始め、市のいろいろな大会を主催している。また、市内に十三人いるS級（終身）の日本公認審判員として、西三河や愛知県の大会など、年間三十五以上の大会で審判を務めている。

「自分も陸上選手としてやってきたので、選手の気持ちがよく分かります。志の高い選手を見ていると気持ちがいいです。一生懸命競技している選手を見るのがいちばんの楽しみです。わたし自身、選手から力をもらっています。」

実は、古久根さん自身、二十五歳のとき、百メートルの陸上選手で、全国大会で優勝したそうである。

最後に今後のことをお聞きすると、「駅伝の連覇です。次は追われる身。昨年の選手のほとんどが今年もメンバーとして期待できるので、優勝を狙います。また、審判もできる限り続けていきます。各種大会で岡崎の選手が活躍する姿をこれからも見守りたいです。」

そう語る古久根さんの言葉から、陸上を愛し、岡崎を思う熱い気持ちが伝わってきた。

氏名 古久根 啓夫
生年月日 昭和六年六月七日
住 所 岡崎白羽根一八一七二

家庭訪問再考

城北中学校長 河村 喜美

「先生に担任してもらった頃、よく家庭訪問をしてくれましたね。」

五年前の四月、現任校で三度目の勤務が始まった折、かつて担任した生徒が今は保護者の一人として、こんな言葉をかけてくれた。

私が本校に最初に赴任したのが昭和五十八年、当時の指導記録を見ると、四十二名の生徒一人当たり平均十回程度は家庭訪問をしていた。

授業後、部活動の指導を終え、翌日の準備や学年・学級の仕事を済ませてからの訪問であるので、帰りにちょっと気になる生徒や声をかけてやりたい生徒を、一人か二人ずつ訪問していたのである。

夕食時には玄関先に生徒を呼んで激励するだけで終えることもあった。また、勉強部屋まで入ってじっくり勉強を見たり、普段の学校や家



A男の成長を支えたもの

矢作東小 高橋 遼

六年生の思い出として版画制作を行った。A男は、「運動会か修学旅行なんだよね」と、微笑んだ。

初めてのことに対する抵抗やこだわりが強い高機能自閉症のA男にとって、運動会や修学旅行はいちばんの難関であった。そして、この二つの行事は、私が最も悩み、そして最も力を入れたものでもあった。

運動会。「一つでも多くの演技を」と、特訓開始。初めは触られることすら嫌だったが、私は、怖がるA男を無理やり肩にのせた。その後、緊張は徐々に解けていった。そして本番は、見事にサボテンや倒立を成功させた。そこには、彼や私からの要望を快く受け入れ、彼が落ち着くまで



待って
いてく
れたク
ラスの
子供た
ちの粘
り強い
協力が
あった。

修学旅行では、班別行動も宿泊も

無事にクリア。毎日パンフレットを並べてのイメージトレーニングを繰り返した。そして、彼の性格を十分理解し、「待つ」という態度で接してくれた子供たちのおかげであったと思う。

クラスの子供たちの理解と協力がA男の成長を支え、彼にとっても忘れがたい思い出となったのである。



魔法の言葉「ありがとう」

竜南中 牧野 佳恵

「ありがとう」

この言葉が飛び交うクラスにするというのが私のいちばんの目標だ。

このクラスは明るく元気な雰囲気だが、なかなか人のために行動ができないでいた。床に落ちたごみを拾えない、配布物が溢まっても配れないというのが四月の状況だった。

そこで時

びかけたのが「一日三回は「ありがとう」と言おう」と

「われよう」という目標。子供たちはゲーム

感覚で楽しんで始めた。しかし、続けるうちに

変化が見られた。こちらが指示を出さなくても自然に動くようになったのだ。いちばん手を焼いていたA男も、プリントを受け取る時に「ありがとう」と言い、欠席した友達に手紙を書いて「ありがとう」と言われるようになった。自分の存在が友達に認められているという実感をも

つたのか、生活も落ち着いてきた。A男が笑顔で言った一言。「先生、

「ありがとう」っていいね」この言葉に私は幸せな気持ちでいっぱいになった。

「ありがとう」は人の心を温かく、優しい気持ちにしてくれる魔法の言葉だ。人のためになりたいという思いをもった温かい子供たちに囲まれ、幸せな毎日をごこせたことに感謝。



庭での生活を話し合ったりして、生徒や保護者との絆を深めるよう努めた。問題行動の後始末のための訪問は教師にとっても気が重いが、生徒を認めたり励ましたりするためのポジティブな訪問は「どんな言葉をかけてやろうか」と考えて支間に立つだけでも楽しい。無論、私たち教師は学校での教育活動に全力を尽くすことが最大の責務である。それでもなお、私は勤務時間を超えてわざわざ家庭を訪う意義を「教育愛の発露」と考えて実践してきた。

今、学校には不登校の問題や授業や学級経営、部活動の指導の在り方に対する保護者からの苦情など、その対応に苦慮している事例も多い。こういう時代だからこそ、無難に一日を終えたいと守勢に立つのではなく、教師の側から生徒を理解し、励ますために積極的に働きかける姿勢が大事であり、訪問はその有効な手段の一つと考えたいのである。

新学期、生徒も保護者も新しい先生との出会いに多くの期待を抱いて最初の家庭訪問を迎える。

「時々、子供さんを励ますために寄らせていただきますからね。」先生の前向きな姿が、生徒や保護者の信頼を得る第一歩となる。



平成20年度 学校教育の視点

▲ 学ぶ楽しさ 一矢作東小一

技術革新や情報化・国際化、核家族化や少子化など、我が国の社会環境は大きく変化した。その中で、子供の道徳心や学ぶ意欲の低下、人間関係の希薄化や青少年による犯罪の増加など様々な課題が生じている。こうした時代の変化を背景として、

六十年ぶりに改正となった教育基本法の下で教育関連三法案が改正された。さらにこの三月には、十年ぶりに新学習指導要領の告示も行われた。「生きる力」の育成という理念を継承しつつ、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学力の育成を保障する授業時数の確保、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体を育む指導の充実など、具体的な手だてを確立する観点からの改訂である。特色ある学校づくりを始めとする学校独自の取組が、ますます重要となってきた。

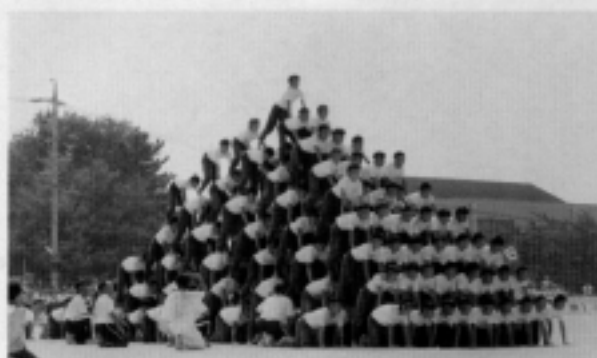
今回の改訂点の一つに、教師が子供と向き合う時間の確保などの教育条件整備が謳われており、現場主義を掲げ、教師の多忙化解消に努めている本市としては望む改訂といえる。本市は、今日的な状況を正しく認識し、真摯な姿勢を貫く教師に恵まれている。各学校において教師は、教師力・人間力を高めるためにさらに精進を重ね、子供の命を守り、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることを使命として、前向きに取り組んでいきたい。

一 学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

生涯学習の時代を迎えた今、子供自身が学ぶ楽しさを実感し、自らの力で社会を生きぬく確かな学力を身に付けるために、次の二点に留意して指導したい。

第一は、基礎的・基本的な内容の定着である。子供が将来にわたって成長・発展していくための基礎・基本を明確にし、繰り返し学んだり体験的な活動を取り入れたりして確実に身に付けさせたい。そこでは、進んで学ぼうとする意欲や、どのように学ぶかという学び方が重要になる。小学校英語の導入に踏み切った意図も、生涯学習を見越してのことであり、学ぶ楽しさを十分意識し、本格的に始まる前に英語嫌いの子を決してつくってはならない。

第二は、周囲を取り巻く社会事象に向け、自分なりに気づき、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。それによって、もっと知りたい、調べたいという意欲が強くなり、意欲的な学びが促進される。それは、子供たちが学びの楽しさに気づき、生きてはたらく確かな学力を身に付けることにつながる。そして、子供一人一人の学びの確かさを確認する際には、評価の観点や基準に照らし合わせるのみならず、学ぶ楽しさや学びの満足感を味わっていることも大切にしたい。



▲ 健やかな体 一竜海中一



▲ 豊かな心 一岩津小一

学校教育に求められているものは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、児童生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことができる、安全で魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働して信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
- 一 命の大切さを知り、他を思いやる「やさしい心」を育む教育の推進
- 一 自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

- 一 命の大切さを知り、他を思いやる「やさしい心」を育む教育の推進

大人が子供に必ず伝えなければならぬことは、何よりも命の大切さであり、命を守る術である。そして、人間として豊かに生きるために、周囲に対するやさしい心の育成を他とのかかり合いの中で育み、磨き上げていくことが強く求められている。

残念ながら本市では、不登校児童生徒が毎年少しずつ増加し、いじめ問題も未だに根絶されていない。そこで、昨年度立ち上げた「いのちの教育」アクションプラン推進事業の学校部会が提示した道徳と特別活動の授業を、すべての学級で実践し、命の尊さや自他の命の大切さに気づかせ、心に浸透させたい。

また、学校生活で人とかわる場面では、見つめる心・思いやる心・感謝する心・我慢する心などをもつことが大切である。誠意ある行動をとることができれば、相手は心地よく受け止めることができる。さらに互いの信頼関係が深まり、人としての「やさしい心」が醸成されていく。学校は、ヒトが人間になるために精進する場であり、子供の目の前にいる教師の人間性が、子供の人格形成に与える影響は極めて大きい。教師自身が正義と倫理をもって、常に自己に励み、子供の手本としてふさわしい豊かな心と人格を磨き上げた

- 一 自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

「健やかな体」とは、単に体力の向上と身体の健康をいうのではなく、自らの人生をたくましく生きる強い精神力が備わっていないなければならない。さらに、規範意識や自分の目標を掲げ、その達成に向けて努力する中で、自信と存在感を抱くことも必要な資質である。

したがって、心身の健康の増進は保健体育科だけに任せるのではなく、全教育活動において計画的に行いたい。指導方法の工夫や改善はもとより、スクール・ボランティアや地域の教育力を活用して、いろいろな人の意見や考え、生き方に触れさせることも有効であると考える。とりわけ、課外で行われている部活動は、規範意識を高めたり自分の目標に向かって努力したりするのに適しており、参加を積極的に呼び掛けていきたい。

「健やかな体」の育成においては、各学校の実態や地域の状況を踏まえ、安全面に十分配慮しながら創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開していくことが重要である。また、日常生活におけるスポーツに親しむ習慣や朝食を始めとする家庭での食習慣なども大きく影響する。そこで、家庭と地域と学校が共通理解のもとに協働していくことが必要不可欠である。

お知らせ



●教育最新情報

○平成二十年度行事予定

- | | | | |
|-------------|--------------------|-----------------------------------|--------------------|
| 四月 | 四日 中学校入学式・始業式 | 五日 生徒市議会 | 六日 市民体育祭 |
| | 七日 小学校入学式・始業式 | 七日 市教育課程・教科領域基礎研修会・教育課程研究集会(六日まで) | 七日 細川小学校研究発表会 |
| | 十四日 現職研修委員会総会 | 七日 芸術鑑賞会 | 二二日 山中小学校研究発表会 |
| | 二二日 全校学力学習状況調査 | 二二日 すぶちの会夏季研修会 | 二五日 おかさきっ子展 |
| | 二七日 岡崎こどもまつり | 二二日 中学生の主張コンクール | 十一月 |
| 五月 | 一七日 中学校総合体育大会 | 一月 | 七日 城南小学校研究発表会 |
| 六月 | 一四日 中学校総体(水泳) | 一五日 英語スピーチフェスタイバル | 一五日 教育文化賞授賞式 |
| | 二四日 六ツ美北中学校研究発表会 | 七月 | 一八日 竜海中学校研究発表会 |
| 七月 | 二二日 市長杯大会(体操・新体操) | 一五日 三学期始業式 | 一九日 小中学校作文コンクール表彰式 |
| | 一八日 一学期終業式 | 一五日 小中学生書き初め展(一八日まで 表彰式) | |
| | 一九日 市長杯大会(二二日まで) | 二月 | 〇日 読書感想文感想画表彰式 |
| | 二二日 小学校球技大会(二五日まで) | 三月 | 六日 中学校卒業式 |
| 二九日 小学校水泳大会 | | 三月 | 一七日 幼稚園卒園式 |
| | | 三月 | 一九日 小学校卒業式 |
| | | 三月 | 二四日 平成二〇年度修了式 |

●教育関係機関だより

○教育研究所

明大寺本町 23-0416

教育研究所は、「研修」「研究」「相談」の拠点として「学校教育の視点」(本誌参照)に掲げた教育の実現を目指している。初任者研修から管理職研修、特別支援教育研修など、中核市への研修権の委譲に伴い、研修の体系化と充実を図ってきている。

○ハートピア

今年で創立二十四年目を迎える。不登校で悩む子や保護者の立場になって、学校、専門機関との橋渡し役として「一人でも多くの子の学校復帰をめざす」を合言葉に、所員一丸となって、取り組んでいる。

○少年自然の家

平成二十年度は、月曜から土曜まで毎日不登校相談を行うことにした。また、専任の所長を配置するなど、人員・業務共に充実を図っていく。

少年自然の家は、市内の児童・生徒が豊かな自然の中で遊び活動することによって、豊かな人間性を育成する目的で、昭和五十二年に開所されて以来、昨年度までの三十年間で百万人を超える児童・生徒が利用している。

不登校の電話相談等、随時行っている。また、直接出向く場合もある。学級の中で、少しでも変だと思ったら、すぐ連絡してほしい。対応策を一緒に考えていきたい。

●表 彰

- ◆子ども音楽コンクール文部科学大臣奨励賞選考会
中学校音楽合奏の部
文部科学大臣賞 岩津中
- ◆第九回創作童話・絵本デジタル絵本コンテスト
創作デジタル絵本部門
経済産業大臣奨励賞
竜海中一年 江越 舞
キッズエクステルス21大賞
竜海中一年 平崎明美
- ◆第十六回上廣道徳教育賞
優秀賞六美北小教諭森田照美
- ◆人権ストーリー・コンテスト二〇〇七
審査委員特別賞(小説)
六ツ美北中二年 湯澤 恵
- ◆第五回アンサンブルコンクール中学生以下の部
サキソフオーン四重奏
銀賞 岩津中
- ◆第二回命と献血俳句コンテスト小学校高学年の部
入選 大門小六年 山下遥歌
- ◆「人間性豊かな実話」作文コンクール
銀賞 竜海中三年 村上まみ
銀賞 竜海中三年 吉田由緒
◆キッズウィットネス・ニュース日本音響賞 井田小 五年五組
- ◆少年少女消防クラブフレンドシップ二〇〇八
シルバー消太賞 常磐南小

- ◆第九回東海ブロック小学生バレーボール新人大会 男子 優勝 竜美丘小
- ◆第三十九回愛知県春季少年剣道大会
男子の部 三位 矢作北中
- ◆第二十四回音楽器個人重奏コンテスト 愛知県大会
優秀賞 トランペット組券
竜海中二年 鈴木沙彩
優良賞 フルート独奏
竜海中二年 谷澤麻実
- ◆第三十五回人権を理解する作品コンクール
佳作 書道の部
竜美丘小五年 本多詩苑

●期待の新任教員 九十五名

- 平成二十年岡崎市小中学校新規採用教員は、九十五名(男子三十四名、女子六十一名)である。
- 新任教員の配属は、次のとおりである。
- ・小学校(五十九名)
梅園小 中本真山香
根石小 露木 育子
津田 要
米澤以津子
伊藤 亜緒
市川 嗣子
青山 恵奈
今井 幹士
山本 愛
榊原 由佳
大樹寺小
大門小
矢作東小
矢作北小
矢作西小
矢作南小
竹内 翔
加藤 哲士
竹崎 陽子
糟谷 麻衣
尾張 早苗
小林由紀恵
杉浦 聡
近藤 沙紀
柴田 貴美
加藤 洋介
長坂 有美
牧 令子
中村 理香
加藤 健太
豊田彩恵子
鳥居 家康
佐宗由佳理
土屋千恵子
小松 知世
木内 聡美
岩崎みなみ
三浦 里美
中條 雅人
菅沼 泰行
岡本 昌也
鈴木 一史
鶴田 咲子
高橋 裕絵
藤井 雅浩
山口ひとみ
杉山 彩
山崎 由子
合原 靖
梅村奈津子
岩堀 友美
六ツ美中部小
六ツ美北部小
六ツ美南部小
城南小
上地小
小豆坂小
北野小
六ツ美西部小
形埜小
下山小
甲山中
美川中
南中
竜海中
葵中
城北中
福岡中
東海中
河合中
常磐中
杉田 祥吾
鈴木 広樹
山本真規子
大山 幸恵
大西 慎二
阿路川昌宏
廣瀬 伸子
戸田 祐司
伊達 恭子
嶋田 麻紀
石原 恵
村田由記子
稲村 美穂
野原 佳乃
鈴木 舞
深津 勇介
佐藤 千晶
山谷今日子
村田 秀実
松原 由奈
佐藤 博
鈴木智重子
内田 貴博
兼松みなわ
安達 佳代
嶺岸 睦
石川 定次
瀧 将太
望月 昭奈
本岡あゆみ
江藤 友美
小西 敏史
片岡 由己
田村 裕介
岩津中
矢作中
六ツ美中
矢作北中
新香山中
竜南中
北中
六ツ美北中
額田中
梅岡 知充
元田 悟
川口 典子
法月 彩乃
兵藤 由季
栗谷本祐治
立松 尚美
鈴木 佑典
浅沼 薫
松永 美穂
後藤 千鶴
中根 優子
新井 健祐
松山 元希
大島由貴子
和田 広幸

●平成二十年岡教組執行委員

- 執行委員長 加藤 有悟
- 執行副委員長 天野 孝志
- 書記長 石原 真吾
- 書記次長 丹下 義輝
- 組織部長 中根 正光
- 情宣部長 清水佐知子
- 教文部長 松阪 禎文
- 福対部長 大久保孝治
- 調査部長 近藤志づ代
- 青年部長 杉浦 大作
- 女性部長 近藤久美子
- 会計委員 鈴木 孝広
- ◆平成二十年度愛教組執行委員・常任
執行副委員長 河合 正浩
青年部長 鈴木 崇之
女性部常任 稲垣里栄子

ホテルの保護活動

(昭和52年)

写真提供：美合小学校

昭和十年に国の天然記念物に指定された「生田ボタル」の保護活動は、美合小の伝統的な取組の一つとなっている。

昭和三十年代になると生田ボタルは、農薬、工場廃水などの影響で絶滅の危機に陥った。昭和五十二年、学校の校地内に人工養殖場が完成し、人工飼育が始まった。写真はその活動の様子である。

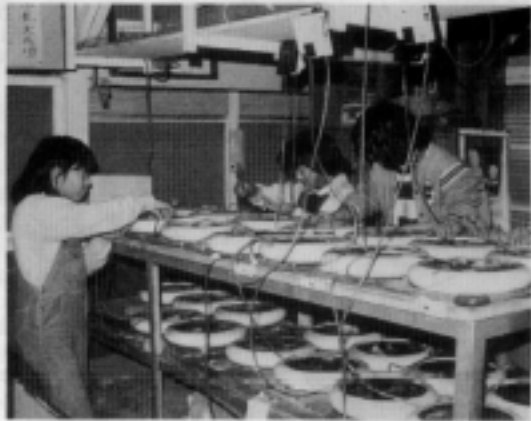
地域と協力して河川美化に取り組み、昭和六十年、初めて山瀬川にホテルの幼虫を放流した。翌夏、生田の地に再びホテルの灯を見た。ついでとついでの子供たちと学区民の目には涙があつたという。保護活動の喜びの瞬間であつた。

市内各校では、ホテル、カワバタモロコ、ササユリ、野鳥など、いろいろな動植物の保護活動が地域と協力して行われるようになった。

・タイトルバック 新香山中 金澤 一幸
・カット 電海中 小川 恵子

フォトヒストリー

岡崎の教育



この本を

- | | |
|--------------|--------|
| * 人間関係 | 五木 寛之 |
| ポプラ社 | ¥1,100 |
| * 泣き虫ハアちゃん | 河合 華雄 |
| 新潮社 | ¥1,300 |
| * 反哲学入門 | 木田 元 |
| 新潮社 | ¥1,500 |
| * モンスターペアレント | 諸富 祥彦 |
| アспект | ¥1,200 |

- | | |
|---------|--------|
| * 信玄と信長 | 百瀬 明治 |
| 実業之日本社 | ¥1,400 |

NHK大河ドラマは、戦国時代の武将を主人公とすることが多い。激しい時代を生き抜く人間性に魅せられるからだろう。本書もまた、戦国時代が舞台である。対照的な二人、武田信玄と織田信長を取り上げ、両者の戦略を比較分析することから、現代の人間管理術の在り方に迫る。信玄を人間の能力を評価した名人主義、信長を能力の限界に目配りした物量主義と説く。学級経営・学年経営をする教師に不可欠のリーダー論となろう。

常磐中 太田 恭子

大きく一息ついて、教室の前で緊張をほぐす。新しい子供たちとの出会いの日。彼らも緊張していることだろう。教室に一歩入ると、興味津々の目が迎える。初めての「先生のお話」は、大事なスタートの一言だ。自然と気合が入る。子供たちの目が輝く、そんな話でありたい。

オアシス

四月二十日は「穀雨」。田んぼや畑の準備が整い、それに合わせてるように柔らかな春の雨が降る時期のことだそう。新年度が始まった。期待に胸を膨らませた子供たちに、穀雨のように愛情を降り注ぎ、大切に、そしてたくましく育てていきたい。

新たな始まりに心高鳴る四月。学校は「ヒトが人間になるために」精進するところという言葉を念頭に入れ、教師と子供とが互いに磨き合える関係を築き上げていきたい。この一年、つばみたちが大きく開花できるように、やさしく水や光を注いでいきたい。

すっと山間を縫うように走る道路。移動時間の短縮や渋滞の緩和、環境への配慮などの期待を担い、新名神高速道路が開通して一か月余が過ぎた。実際、岡崎から京都までの時間も約二十分の短縮で、ますます近くなった。桜の見どころの京都に出かけてみたい。

